

2005.7.25秋田大学へ珍客闖入

本日正午少し前、秋田大学正門から珍客が闖入しました。なんと、野生のカモシカです。慌ててそばに行って撮影しました。近くの山から時々訪問してくるそうですが、ビックリです。極暑の熊谷の皆様には暑中お見舞いとして写真送ります。



2005.8.3～6竿灯祭り

東北もようやく梅雨明け。青森ねぶた、岩手さんさ、仙台七夕、そして3日から秋田では竿灯祭りスタート。夜7時半から9時頃まで、専用道路を全て車両進入禁止にして中央分離帯に棧敷席。町内、会社、グループ、各種団体毎200本余りの灯をともした竿燈を腕を伸ばした掌、肩、腰などで支える妙技を続ける。中央棧敷席は主に観光者などの予約席、道路両側の歩道は一般席。1本の竿に46個の提灯をつけ夜の闇に揺れる様、これは稲穂を表し五穀豊穡の祭です。秋田大でもこの竿燈を2基、竿燈は男だけが担ぎ、女性陣はお囃子担当。お囃子は直径1.5mぐらいの大きな太鼓を2人でたたき、その他に横笛が多数。この大太鼓は外装を飾り付けたトラックに乗せて、それを笛組が囲み、その囃子に会わせてを次から次と担ぎ手が交換しながら演技する。東北は冬が厳しいために夏の祭が盛んなのかも知れませんね。関東の夏祭りが「動」とするとねぶたも竿燈も「静」の特徴の違いを感じます。これも地域・文化の特徴かなと思います。さて、竿灯祭りは8月3日から6日まで4日間。今日は私たちも揃いのハッピーに短パン、ハチ巻きに白足袋を履いて提灯持ちで参加です。管理職が順番性で当番で分担します。秋田はこれから夏本番。



2005.11.11秋田不惑福岡ねんりんピック参加

ド～モ～、菊池です。11月12日秋田空港午前9時半集合、羽田経由で福岡入り。ラグビーは宗像市で行われました。当日17時30分より全参加チーム集合して開始式が宗像ユリックスイベントホールで行われました。参加チームは北から秋田、群馬、千葉、東京、富山、石川、静岡、滋賀、京都、大阪、兵庫、山口、徳島、愛媛、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、名古屋、福岡1・2、北九州、福岡市、福岡県内選抜でした。関東・富山のチームには知っている顔も。試合会場はグローバルアリーナは、菅平のサニアパークの一角にさらに宿泊棟、レストラン等がセットされたような場所、グラウンドも4面芝張りのすばらしいところでした。秋田は13日対山口戦、14日対佐賀戦の2試合が組まれました。対山口戦は接戦の末ゴールの差で惜敗、3トライのうち私2トライ。対佐賀戦は地の利佐賀は今般を中心に構成して完封、ノーサイドの瞬間佐賀チームの歓喜の声、秋田への気合いが尋常ではなかったようでした。本遠征秋田チームはフォワード、バックスとも各メンバーの本来のポジションではないチーム構成を余儀なくされたものでした。開始式では舞台上からの挨拶だけで解散、各チーム宿舎に帰ってそれぞれアルコール消毒。せっかくの九州遠征試合はもちろんですが、夜も盛り上がりた。秋田不惑の元気の残ったメンバーは数人夕闇の中州方面まで足を伸ばしたようでしたが、私たち数人は皆から会費を集めて町へ買い出しにいき、13日の夜は盛り上がりました。14日午前中佐賀との試合終了後、秋田不惑のほとんどのメンバーは急いで支度をして福岡空港へ向かい帰路に就きました。残った数人が表彰式へ参加、秋田不惑は「最高齢チーム賞」を受賞しました。19日日曜日、朝起きて外を見ると草むらは雪のようなもので真っ白でしたが、いつもの練習場に行くど皆集まって練習開始。秋田は雪が積もるまで日曜日練習をして、雪が積もったらしばし春まで練習は冬眠するようです。雪が降り積もるまでに、本年最後の試合を組んで、納会&忘年会をやるの冬を迎える秋田不惑の予定のようです。



2005.12.14秋田情報

秋田は今週はずっと大雪です。貼付した写真は秋田大学正門前の道路と秋田大学正門から構内の写真です。この写真は12日月曜日朝撮影したのですが、この後も毎日雪が降り続き今ではさらに雪が積もっています。秋田不惑は既に練習は冬休み、今週16日にねんりんピック反省会と忘年会の予定です。私自身は週末は男鹿半島へ行って磯の岩場から寒クロ(この季節の黒鯛)釣りにチャレンジしています。この釣りは寒さとの戦いです。



2006.1.18秋田不惑はただいま冬眠中

ど〜も〜、秋田からです。

熊惑の皆さん、本年もよろしくお願いいたします。熊惑は今年は30周年を迎え、皆様のますますのご健勝をお祈りします。秋田は今年は12月から大雪、今もほとんど毎日雪が降り続けています。既に12月からグラウンドは雪で真っ白、この雪が無くなる4月までは練習はできずに冬眠中です。先日秋田不惑の総会及び新年会が行われました。18年度事業計画の中で5月に第35回東日本不惑ラグビー大会が今年は秋田で計画されています。この大会は昨年は山形で行われましたが、関東からも何チームか参加していましたが、熊惑は入っていませんでした。西日本があって東日本があるわけですから今年は是非この大会に参加してほしいものです。さて、30周年の準備で大変だと思いますが、今年は熊惑と秋田とで親善試合も実現できればと思っています。この雪深い季節、私は天気の良い日を見ては男鹿半島に釣りに行っています。写真は男鹿半島入道崎の正月元旦の写真です、この崖の下の磯で釣りをしました。釣り場まで岩を登ったり降りたりとハードですが、これも冬眠中のトレーニングと思っています。



2006.2.10西木村紙風船祭り

ド～モ～、菊池です。2月10日は西木村紙風船祭り。西木という字を縦に並べると栗という字になります。田沢湖の近くにあるここは大きな栗の産地でもあります。今は合併して仙北市西木町となりましたが、その昔ここを平賀源内が通った折り紙風船を着くって空にあげたのがこのお祭りの始まり。当日朝から村の広場の周囲に各集落ごとのテント設営、それぞれ得意の出店もセットして学園祭さながらの模擬店が建ち並びお祭り気分高揚。山に囲まれ周り是一片雪景色の中、陽が落ちて空が夜の闇となると、中央広場に各集落で準備した紙風船が持ち出される。紙風船は障子紙でできていて、乗用車がすっぽり入るくらい大きなもの。この風船に趣向を凝らした錦絵等が描かれて、風船の口のところは竹の芯で直径約1m余り、この口からガスバーナーで暖かい空気を送り込むと萎んだ風船は少しずつ膨らんでやがて立ち上がってくる。そのとき約10人くらいの人がこの口の縁を万歳の格好で支え、さらにガスバーナーで空気を送り込む。頃合いを見てこの口に十文字に補強された針金の交点に油をしみこませてソフトボール大の布（タンポという）を括り付け火を付けて放す。紙風船はフワリフワリと暗い夜空にタンポの火明かりを紙風船からもらして上空へ上がっていく、とても幻想的な景観です。風船が上がる毎に周りの人たちが拍手で喜びを表す。今週は月・火と久々の雨が降り続いてもう春かと思いきや、地元の人はまだまだ冬だという。東北ではこの時季地域によっていろいろなお祭りがあります。長く厳しい冬を乗り切るための知恵かもしれませんね。



2006.7.21秋田竿灯祭り情報

8月3～6日は秋田の竿灯祭りです。片側3車線で中央分離帯のある広い竿灯通りがメイン会場になります。既にこの中央分離帯には竿灯祭りに備え観覧席がセットされ祭りの準備は整いつつあります。祭りは夕暮れ、各町内・団体等が竿灯とお囃子交代要員を引き連れてこの竿灯通りの所定の場所に集まってきます。スピーカーからの合図でこの竿灯通りの両側に一斉にお囃子が鳴り響き灯を入れた竿灯がゆらゆらと立ち上がってきます。空は既に闇、そこに立ち上がった沢山の竿灯は実を付けた稲穂を彷彿させ、五穀豊穰の祭りの所以です。既にこの祭りに備え、各町内・団体ではお囃子と竿灯の練習が始まっています。写真は秋田大学事務局前で数週間前から勤務後毎日練習をやっているものです。竿灯はバランスを失うと簡単に倒れてしまいますので、練習用の竿灯には既に破れた提灯をつけています。竿灯は男性のみが担ぎます、お囃子は男性も女性も参加できます。



2006.8.3秋田発：西馬音内盆踊り

ド～モ～、菊池です。

雪国の夏は、冬の厳しい分お祭りが派手に感じるものです。昨日は弘前大学へ理事の随行でねぶた祭り参加のため行ってきました。夜の市街を75台もの種々の趣向のねぶたが次々とお囃子を伴って引かれていく。弘前大学から渡された浴衣を着て白足袋に雪駄、ピンクのたすきを背中で蝶々結びしたいでたちで提灯を持って弘前大学ねぶたと巡行。さて、秋田は本日3日から日曜日まで竿灯祭り。添付写真は西馬音内盆踊りです。秋田音頭の快活で賑やかなお囃子には似つかない独特な豊艶な西馬音内盆踊り。未だ本物を見たことがなかったのですが、先週の夜8時半から秋田駅前広場でこの踊りがあるというので行ってみました。駅前広場へ所定の時間までに行く途中居酒屋で時間調整、用意していった一眼レフのカメラを持っていったがディスクをウっかり入れてなかったので仕方なく携帯で撮影。踊り手は「編み笠」か亡霊になぞったといわれる「ひこさ頭巾」のどちらかをかぶり、「はぬい衣裳」か「絞り染めの浴衣」を着ています。県南の羽後町というところの盆踊り、是非今年の夏は現地で見てみたい。「東北のものとは思われぬほど優美な踊りである。この踊りは同じ優美さでも、佐渡や津軽系ほど活発ではない。ゆっくりと歩くことが基本で、それにしなやかな手振り、足振りが加わった感がある。踊りの手は三度ばかり変化する。風に揺れる稲穂を連想させる。恐る恐る人波をかき分けて進むおぼこ娘のときめきがある。かと思うと、豊艶な年増おんなの色っぽさがこぼれる。盆踊り歌の朴とつな方言とは妙な対象を示している。京踊りの影響があるかも知れない。泥臭さが全くない。洗練され過ぎている」(「西馬音内紀行」昭和40・8『民芸手帖』)



2006.10.2秋田から秋の便り：釣り終い

ド～モ～、菊池です。

早いもので、もう10月になりましたが皆様お元気でご活躍のことお喜び申し上げます。本日は秋田より 私のキ印の釣りのお話から秋田の秋をお届けします。溪流釣りも鮎釣りも秋田では9月末で禁漁となります。鮎は禁漁を待たずに既にシーズンを終えています。

1枚目の写真は私がよく行く溪の近くに今年は多く掲示されていました。熊の出没による事故も昨年の同時期に比べると倍の件数だといわれています。これは、昨年山の木の実が豊作だったため熊が多く繁殖したが、今年はこの木の実が少なく昨年育った熊が餌を探しに里まで下りてきたことによるといわれています。熊に注意といわれてもしようがありませんが、私は独人溪に出掛ける時は、マタギ長刀という切れ味の良い鉈を腰に携行して行きます。そして溪を遡上しながら釣り登るときに時々上流に向かって大声で雄叫びをあげています。今シーズンの釣り納めということで、9月30日（土）、朝から10km余りの所にある旭川上流と更に20数kmの所の岩見川岨谷峡という2カ所の溪をハシゴしました。2枚目の写真は旭川で釣った山女魚（ヤマメ）です。3枚目の写真は岩見川岨谷峡で釣った山女魚と岩魚（イワナ）です。この時季になると小さなヤマメの稚魚（木の葉ヤマメ）が沢山釣れますが、優しくハリをはずしてリリースします。来年更に大きくなって再会することを念じながら。4枚目の写真は岨谷峡の写真ですが、平年に比べ水量は半分以下の状態です。秋田は冬は大雪でしたが、春から夏にかけて雨が少なく渇水状態でした。この岨谷峡の上流でそろそろ釣りを終えようとした時、水中に大きな魚影が何尾か走るのが見えました。釣り師の習性で心臓の高鳴りを憶えながら竿と仕掛けをその魚の泳ぐポイントへ投入しようと身構えました。その直後、再び私の目の前を魚体を婚姻色にした大きな魚が走っていくのが見えました。実物を見るのは初めてでしたが、TVなどでよく見る鮭そのものでした。思わず感嘆のうめき声を上げて、静かに釣り竿を握ったまま岸に後退しました。海からこんな上流域まで産卵のために遡上してきた魚体を見て、畏敬の想いが湧いてきました。この時季にこんな魚たちを釣ってはいけないと、禁漁の意味が自然に感謝する想いと重なって体感した瞬間でした。今シーズン納得の溪流釣り納めとなりました。この岨谷峡はじめ秋田にはこれから訪れる冬までの僅かな期間ですが、素晴らしい紅葉が寒い冬の前に色鮮やかに燃える季節となります。どうぞ皆さん、機会がありましたらお出かけください。秋田名物の種々の鍋と温泉そして秋田のお酒もこれからの季節がいいのですよ。



2006.11.6無事秋田へ帰還！(ゴールデン オールデイズ ラグビー大会)

ド～モ～、菊池です。

11月6日、10日間にわたるNZから秋田へ無事帰還しました。成田空港では皆様のお出迎えもいただき(^^)それはありませんでした。

NZウェリントンに8日間滞在してその間、外国チーム3試合1日置きに消化しました。私のラグビーが世界に通じるか試してみたい思いもありましたが、体の大きな外国選手相手に、3試合で計11トライの収穫でした。外国チームは現役を退いたばかりの40代のメンバーが多かったようですが、赤色パンツ(60代)、黄色パンツ(70代)、パープルパンツ(高齢)の相手選手にはタックルできない、そしてこのカラーパンツの選手は20m以上ボールを持って走れないというルール。しかし、私(上記カラーパンツの年代より若い58歳)が一度ボールを持って走りつると、彼らは即マークについて真剣になってきます。が、そこは国際フェスティバル、タックルされても肩を抱き合って「ナイスタックル！」と言って笑顔で交歓。私もタックルを受けて下敷きになつたりすると上へ倒れ込んだ彼らに向かって「Oh you're very heavy!」なんて笑顔で怒鳴る。初めの写真は7日の夕刻からオーブンセモニー会場のエントランスの混雑状態。今回の大会には16チームが各国から集まり大変な混雑でした。

2: オープンセモニー会場

3: そのメインステージに先住民マオリの踊り手が控えてマイクで女性のウェリントン市長が歓迎挨拶をしている。この女性市長は若くて会場を笑わせながらスピーチでした。

4: 試合の写真は私がフル出場でしたので取れませんが、試合の間の日には観光のツアー。NZは南島と北島からなり国土面積は日本の本土とほぼ同じのこと。この写真はウェリントンから郊外に向かうバスの窓からうつしたもので、ご覧のように郊外に行くに日本のように畑があつたり工場があつたりではなく、ご覧のように全て牧草地、民家はほんの僅かで密集していない。そのようなどかな牧草地に羊が放牧されている。間違いない人の数より羊の数の方が桁違いに多い。町で走る車も8割以上が日本車、自動車は全て輸入品のごとく、NZは意外に地味な国柄かと思う。

5: 試合後はご覧のようにクラブハウスで敵味方入り交じってビールで懇親を深める。彼らが頭に巻いている鉢巻きは日本の人たちの交換品。

6: 自分たちの試合の写真は撮れなかったけど、このようなラグビーグラウンドがら面程度一か所にあつてクラブハウスがある。

7: ウェリントン市街、海から直ぐに山に繋がる地形で日本で言うところの横浜のような感じかな、山の傾斜地にびっしりと建物が続いている。

8-9: バスも電車も今回のラグビーフェスティバル専用のチャーターの張り紙があつてこれらを利用してグラウンドの観戦、観光ツアーに利用できました。

10: ウェリントンの高台から見下ろした風景。

11-13: ウェリントン滞在中泊まった私たちのホテルの部屋。男2人のツイン。バスが大きくお湯を貼ろうとしてもなかなかお湯が一杯にならない。キッチンも冷蔵庫・オーブンレンジ・洗濯機が全てセットされ、調理用具一式・食器まであり、近くのスーパーで食材を買い込んで毎朝食は手作りして試合に備えました。

星・夜食は外食。ヨーロッパも同様NZでも肉とパンの食事は閉口。料理は文化だと強く認識。

14: 町で見たバス停、ちゃんとガラスで囲われていました。

15: フラグタルビエモニーは4000人収容の特設テント。その会場に向かう状況。

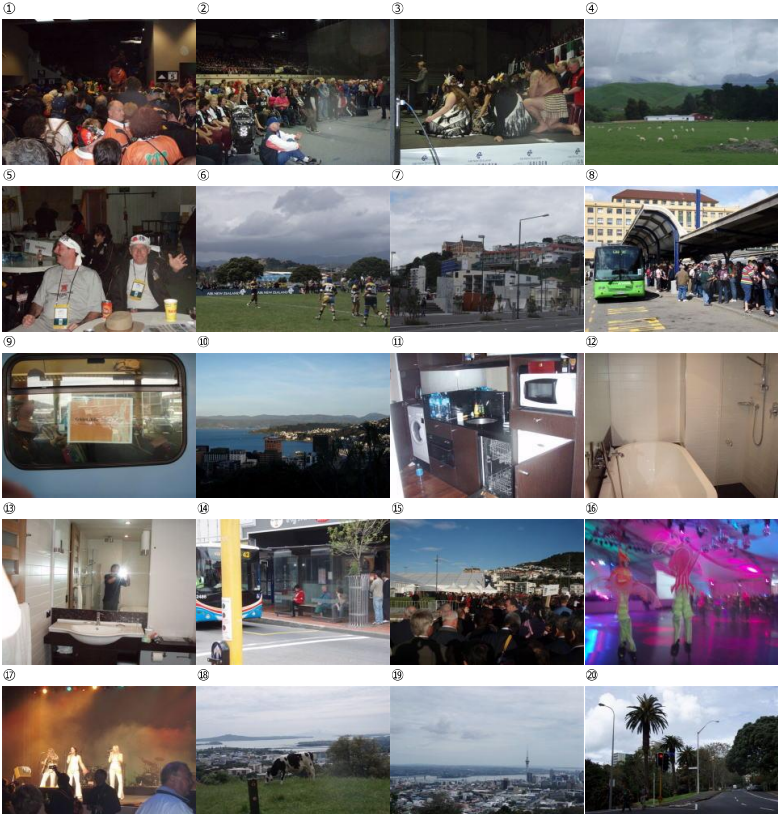
16-17: 特設テントの中。そして中央にはステージがあり私の知らないグループ歌手が歌い続けていました。この点の中でそれぞれ各国の参加者がパッチ交歓、ジョージ交歓etc、ドリンクを飲みながら、食べながらのパーティー。11月5日は国際空港のあるオークランドへ移動、ここで1泊。

18: オークランドの一角にある標高100m程度の丘、回りが低いのでここに登ると市街一望できる公園となっている。この草を刈るために人手をかけるのではなく賢い通草刈り用の牛を放牧しているそうである。気を付けないと所々に牛の排泄物がありました。

19: この丘の上からのオークランド全景。かつてこのオークランドがNZの首都だったと云うこと、ウェリントンより少し北に位置する場所なのでより赤道に近いため公園の木も枝もたわんに生長している。

20: 私たちがNZ最期の1夜を過ごしたHYATTホテルの前に公園がありました。ウェリントンより少し北に位置する場所なのでより赤道に近いため公園の木も枝もたわんに生長している。

余り私事を送信することに、迷惑かと慮慮していました。先日別件で友人に電話したところ「NZに住み着いて帰らないのか」と言われ、帰還報告を送信しました。秋田は既に冬間近の季節となりました。皆さん今年もあと僅か、益々のご健勝お祈り申し上げます。



2006.12.4秋田；冬物語り

ド～モ～、菊池です。

写真は今朝の通勤時のものです。秋田では日曜日から今年最初の雪景色となりました。初めの写真は大学前の道路の状況、次の写真は大学構内の写真です。関東では紅葉の季節とか聞いていますが、秋田では今年もいよいよ冬物語りの始まりです。



2007.2.20秋田；樹氷鑑賞会

ド～モ～、菊池です。

17・18日に山形大学の蔵王にある山の家で恒例の「樹氷鑑賞会」が行われました。蔵王温泉市街から中央リフトで鳥兜山頂まで行き、そこからスキーで少し滑り降りたところに山の家があります。秋田大学施設部からは私を含めて5人参加。そのうちスキーをやるのは私の他2人、後の2人はスキーは端からやらず雪見で一杯の方の鑑賞。17日 蔵王は快晴。3枚目の写真；右端の白い山が秋田の鳥海山、左端の山が山形の月山です。このように眺望がよいのは蔵王では非常に希だとのことでした。4枚目の写真の中央あたりに雪の中に黒い点が見えるのが野生のカモシカです。肉眼でははっきりと識別できましたが、望遠レンズを持参しなかったのが残念です。最後の写真は秋田への帰り道山形の村山というところにあった道の駅で休憩。そこで売っていたミニバラの小鉢を赤・オレンジ・白色の3鉢購入。秋田へ帰ってから大鉢にこのミニバラの3株を植えたモノです。蔵王と比べると秋田市内は全く雪もなく、ここ数日冬が走り去ってしまったような気候です。今年は暖冬といわれていますが、雪が少なくてもやはり秋田の冬は寒いモノです。♪もうすぐ春ですネ♪



2007.5.1秋田から本州終盤の桜とミズバショウのたより

ド～モ～、菊池です。

今年のGW前半も終わり、皆様どのようにお過ごしでしょうか。私のGWはカレンダー通りで、前半は秋田県内の山に入って溪流でお魚さんとコミュニケーションでした。ちょっと容量が大きくなってしまいましたが、秋田から50km程の「角館の桜」と角館から10数kmの所にある「刺巻のミズバショウ」の写真です。秋田では桜が咲いてからほんの数日を除いてお花見をするような天気恵まれず、それでも前半のGWはとても暖かい日が続きました。角館は秋田市内より数日桜が遅いといわれています。私は28日(土)午前10時頃角館に行って観光客が多くなる少し前の時間帯に行って写真を撮りました。(写真NO. 1・2)この通りの桜は僅か盛り以前の状況であった様子、翌日か翌々日の日・月は更に桜が咲き誇ったようでした。(写真NO. 3～)その後、角館から刺巻に向かいミズバショウ群生地に行きました。国道脇のブナ林の中に木道が敷設された湿地帯一帯にミズバショウが群生しています。そのミズバショウの奥の方はカタクリが群生していますが、既にカタクリの花は盛期を過ぎています。(写真NO. 5・6)最後の写真は、この群生地の道路近くの空き地で地元の芸能保存会のメンバーが囃子と踊りを無料で披露している特設舞台です。踊り手は地元の可愛い小学生くらいの女の娘でした。この2カ所で写真を撮った後、私は田沢湖より更に山の方にある乳頭温泉郷の近くの未だ雪の残る溪へ行って、イワナ釣りに没頭しました。今冬は例年よりも雪が少なく熊の出没も早いといわれている秋田山間部、熊除けの鈴を腰にぶら下げ、いざという時のための山鉈(長刀:ナガサ)も腰紐に携行しての釣りです。5月3日からのGW後半、3日は日帰り登山で男鹿三山に行ってきます。後はほとんど秋田の溪に相変わらずの釣り三昧の事となるでしょう。本日より5月、皆さん今月も良い月でありますように。

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



2007/10/29秋田の紅葉

ド～モ～、菊池です。

既に秋田では朝晩すっかり寒くなり、冬支度を必要とする季節となってきました。皆様お元気のご様子お喜び申し上げます。早いもので今週から11月となります。もうすぐ12月、そしてお正月。シーズン中に溪流釣りのホームグラウンドとなる秋田市内から30分程度にある岩見ダム上流域。ちょうど紅葉の時期だったので、午前中ラグビーの練習を終え撮影。この後、男鹿半島へ行って夕刻まで磯釣り。秋田、一昨年は数十年ぶりの大雪、昨年は数十年ぶりに少ない雪。果たして今年はどうなることでしょうか。



2008/2/4山形蔵王樹氷鑑賞会;from秋田

ド～モ～、菊池です。

新年も既に2月となりました。

東京でも大雪が降ったというニュースですが、秋田では正月4日からずっと雪が降ったり止んだりの冬本番です。

山形大学施設部主催の恒例の「樹氷鑑賞会」が今年も2月2・3日蔵王で行われました。

ヨロコンデ～～～参加！しまして、樹氷の干渉は勿論のこと、たっぷり滑って、夜は皆さんとたっぷりお酒をいただきながら盛り上がり、参加の皆さんと素晴らしいコミュニケーションができました。

蔵王では当日時々青空が見えましたが気温は-6度。そんな合間の青空の時の樹氷の写真と蔵王地蔵尊の写真を添付しました。このお地蔵さんは高さは2.34m、雪の季節は写真のように首から上だけがでています。お賽銭箱だけは雪に埋もれることもなく、スキーが取り付けられています。

秋田は今週も天気予報では毎日雪のようです。暦の上では本日が立春、雪が降るほどに春が少しずつ近づいてくることでしょう。どうぞ皆さん、良い春をお祈りします。♪春よこい、早く来い…………♪



2009/2/26 ♪ 春よ来い ♪ from秋田

ド～モ～、菊池です。

秋田新幹線こまちは東京から仙台を經由して盛岡までは東北新幹線と連結して走って来ます。盛岡駅でこまちは連結を放たれて約2時間、奥羽山脈を横断して雫石→田沢湖→角館→大曲→秋田へとたどり着きます。こまち号は全席指定、座席は中通路を挟んで両側に2席ずつのコンパクトな車両です。添付写真は秋田駅ホームにあるものですが、よく見ると角館から来たこまち号はバックして終点秋田に。そうなのです、こまち号は大曲・秋田間は進行方向が逆向きになるのです。秋田から東京に行く上りの場合も秋田・大曲間はバック進行となります。大曲(おおまがり)市は現在は大仙市となりましたが、駅名は大曲のままです。大曲は夏の花火大会で有名な所でもあります、地名の通り秋田新幹線こまちはここで大きく曲がるというより、進行方向が逆になる駅となります。秋田もようやく少しずつですが冬から春へと季節が変わりつつあります。2枚目の写真は2月上旬、田沢湖から秋田駒ヶ岳と乳頭山が一望できたときのものです。この時期にこんなに鮮明に秋田駒が見えることは希だと言うことです。正面の大きい山が秋田駒ヶ岳、左斜面中腹に白く見えるのが乳頭山です。雫石方面からの眺望がちょうど乳頭山に見えると言うことです。これらの山は、私も既に夏に踏破しました。秋田駒ではコマクサが見られるということですが、残念ながら私が上ったときは未だ開花前でした。秋田は冬季大陸から白鳥が越冬のため渡ってきます。よく、郊外の田んぼで群をなして餌をついばんでいる景色に遭遇します。今頃は、朝9時過ぎ頃になると日本海に流れ下る河口辺りから数十羽の群が隊を成して、種々隊形を変えながらカウー……というような鳴き声を発しながら次々と山の方向に向かって飛んでいきます。写真は今朝事務所の屋上で9時40分頃撮ったものです。この数十羽の群が、海の方から次から次へと通過していきます。

